
手紙

斎木尚

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

手紙

【Nコード】

N8860E

【作者名】

斎木尚

【あらすじ】

先逝く彼女から、彼へ遺された一通の手紙。

「私は確かに、貴方に恋していました。

それは、子供のように純粹に、滑稽なほど純真に、唯々貴方を見つめ続けるだけのものでしたけれど、それでも確かに、私は貴方に恋していたのです。

恋に恋していたと言われれば、そうなのかもしれません。

けれど、それでも良かったのです。

愛は畜生にでも注げるけれど、恋は貴方以外にできないと思いました。

貴方のことが本当に好きでした。

狂おしいほど慕わしい、憎らしいほど愛おしい、煩わしいほど恋しい貴方。

千一夜を費やそうとも、私の中のこの思いを伝えることは到底できないでしょう。

それほどに貴方は私の中でとても大きな人でした。

誰よりも、何よりも大切な、貴方。

こんな陳腐な言葉しか出てこない自分が口惜しいほど、貴方が大事で、大切に、愛しかった。

きつと直ぐに、貴方は私のことなど忘れてしまつたのでしょうか、それでいいのだと思いました。

恋明かした日は、私が覚えていればいい。

たつた、それだけのことなのですから。

もう白露の頃も過ぎました。

これから一層冷え込むことも多くなるでしょうから、どうか温かくして眠って欲しいと思います。

もう直ぐ私はいなくなるのです。

老婆心くらは汲んで下さい。仕方のない奴だ、と。

そして愚かな女であつたと、笑ってください。

最後の最期まで、自身のことを案ずるような、そんな馬鹿な女であつたと。

貴方への思いは靱やかに柔らかい恋でした。

淑やかに儚い恋でした。

軽やかに優しい恋でした。

二度とないと思えるような、暖かに愛しい恋でした。

どうか息災に。

どうかお達者で。

そしてどうか、幸せになって下さい。

ありがとう、左様なら。

私の汝兄の命。

正しく、命だった方。』

彼女からの手紙を見つけたのは、すべてが終わってからだった。

見つかるか、見つからないか、可能性は五分、そんな場所にひっそりと遺されていた手紙。

嗚呼もっと早く気づけていたなら、青白い君の肌が、尚白くなった

ように思えたあの時に気づけていたなら、なにか違う未来があったんだろうか。

ずっと共に添って生くのだと思っていた。

さようなら、さようなら。

もう二度とは会えぬ君よ。

拳を握り、目頭を襲う熱さを堪えて、君の幸せを願うことしか、俺には最早出来ないのだろう。

握りしめた手紙がくしゃりと音を立てて床に舞った。

さらば、我が汝妹の命。

君にとっての俺と同じく、君も正しく俺の命だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8860e/>

手紙

2011年2月2日03時14分発行